



地にひそむ生命を腕に

令和7年度 佐伯市立昭和中学校 学校通信

NO. 10

令和7年12月16日

文責:校長 川野 匡



3年生が、独自に様々な体験学習に臨んでいます。まず11月4日(火)豊南高校福祉科の高校生を招いて、福祉体験の授業をしてくださいました。つづいて5日(水)には「チョークアート」「イラスト」「写真」の講師を招いてアート体験をしました。6日(木)は、矢部コーディネーター、株式会社「和・良事」さんに協力いただき、春に植えた生姜の収穫体験です。さらに18日(火)・19日(水)は、食生活改善推進委員会のみなさんをお招きし、収穫した生姜を使った調理実習をしました。

ちなみにこの後、三者面談をし、放課後学習も始まり、今はすっかり受験体制に突入しています。

この他にも、1年生の総合的な学習の時間の演劇体験や2年生の百人一首大会など、本校は、熱心な職員に支えられ、本当に様々な生活体験を仕組んでいます。



2年生「修学旅行」

毎年恒例の2年生修学旅行を、今年度は11月に実施しました。法隆寺・東大寺見学、京都の自主研修、USJなど、集団行動や体験による成長と楽しい思い出いっぱいの2泊3日になりました。



APU 交流

12月4日(木)に、2年生英語の授業で、APUの学生2人を招き、交流活動をしました。生徒たちは事前に用意した佐伯の魅力を英語で紹介したり、質問をしたりするなどして、活発に交流することができました。きっと、「英語で話さなくてはならない状況」と「通じたときの喜び」が英語を勉強する意欲を高めてくれたことでしょう。今後の英語の授業が楽しみです。



2学期学校評価結果について

日頃より、本校の教育活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2学期末に実施した学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員)について、前学期の結果と比較しながら概要をご報告いたします。

まず【学習に関する項目】です。

生徒アンケートにおいて、「授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合は、前学期の約87%から今学期は約86%と、ほぼ同水準を維持しました。学年別では差が見られるものの、全体として授業理解度は安定して高い状態にあります。また、「授業で自分の考えを持ち、話し合いに参加している」については、前学期より約3ポイント上昇しており、対話的な学びが着実に広がっていることがうかがえます。

一方、「家庭学習に計画的に取り組んでいる」では、肯定的回答が前学期よりやや低下する結果となりました。学習内容の定着を図るためにも、今後は家庭と連携し、学習の見通しを持たせる工夫を進めていく必要があると考えています。

次に【生活・心の面】についてです。

「自分には良いところがあると思う」と回答した生徒は、前学期から微増し、今学期も9割前後の高い水準を維持しました。生徒一人一人のよさを認め合う学級づくりや、日常的な声かけの積み重ねが成果として表れています。また、「学校は安心して過ごせる場所である」と感じている生徒の割合も、前学期と同様に高い数値を保っており、落ち着いた学校生活が継続していることが確認できました。

【保護者アンケート】では、「学校は子どもの様子を丁寧に把握している」と感じている保護者が、前学期より数ポイント上昇し、9割を超える結果となりました。また、「家庭で親子のコミュニケーションを大切にしている」は、前学期・今学期ともに95%前後と非常に高く、家庭での支えが子どもたちの成長につながっていることが分かります。

【教職員アンケート】では、「生徒は資料を読み取り、自分の考えを表現する力が伸びている」とする回答が前学期より向上しており、授業改善や指導の工夫が一定の成果を上げていることが確認されました。

これらの結果から、本校の教育活動は多くの点で前向きに推移している一方、家庭学習の定着など、引き続き取り組むべき課題も明らかになりました。今後も、学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちが安心して学び、成長できる環境づくりに努めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。